西村証券 企業調査速報

2021/07/19

［金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会］

ファルコホールディングス（コード 4671）

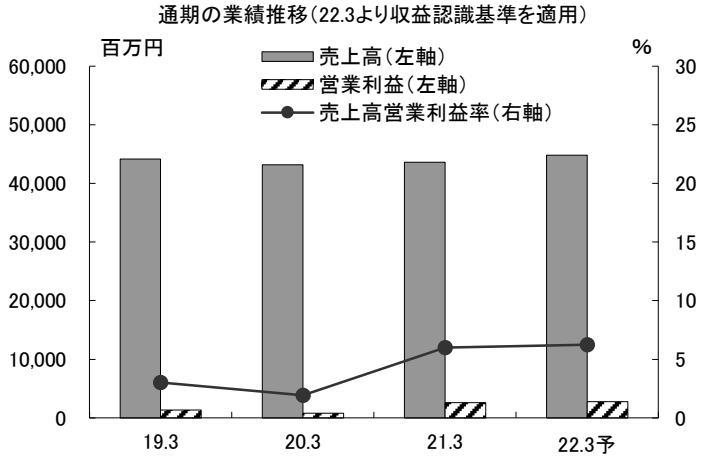
◆通期業績推移(連結)（22.3 より収益認識基準を適用。22.3 予は会社側予想）

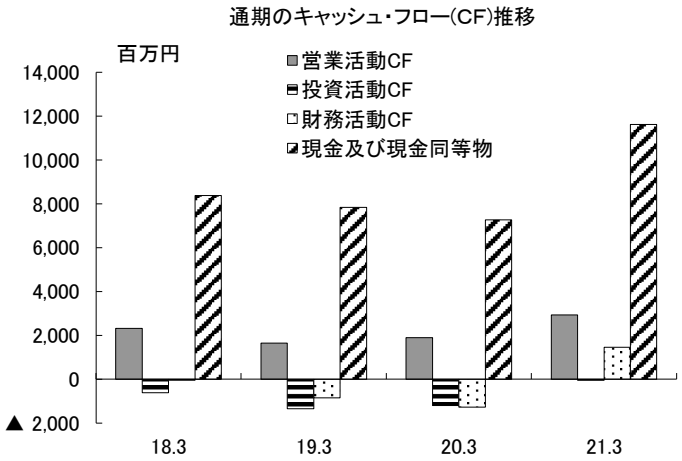
決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
19.3	44,156	1,338	59.8	46.0	1,651	▲1,345	▲845	7,833
20.3	43,185	841	116.9	48.0	1,901	▲1,194	▲1,267	7,272
21.3	43,608	2,614	178.6	54.0	2,937	▲52	1,460	11,618
22.3予	44,800	2,800	173.5	56.0	－	－	－	－

◆各決算期の第 2 四半期業績推移(連結)（22.3 予は会社側公表無し）

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
19.3	22,082	710	48.3	23.0	1,196	▲800	▲414	8,353
20.3	21,933	682	25.7	23.0	456	▲523	▲913	6,852
21.3	20,391	712	32.5	24.0	736	▲1,427	2,639	9,220

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）



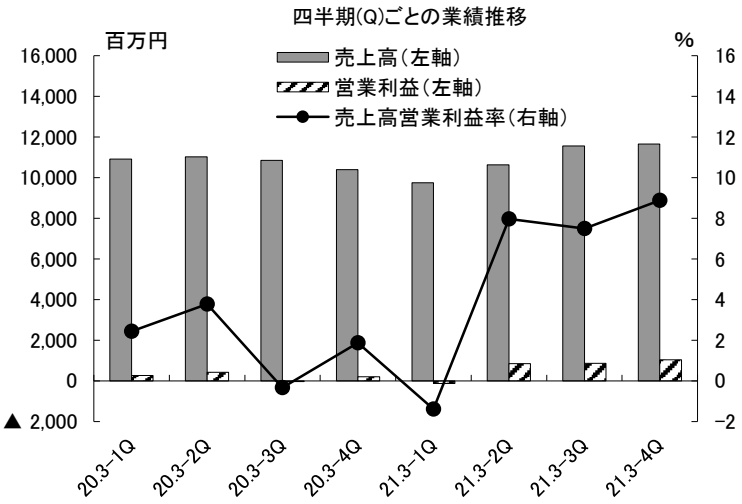


21 年 3 月期の業績概況…21 年 3 月期の業績は、売上高 436 億 800 万円（20 年 3 月期比 1.0%増）、営業利益 26 億 1,400 万円（同 210.8%増）、経常利益 28 億 5,300 万円（同 203.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）18 億 5,300 万円（同 49.1%増）となった。新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」）拡大の影響で医療機関への受診控えが生じ、受託検体数、処方箋枚数が減少したが、20 年 6 月以降は減少幅が縮小。第 2 四半期（20 年 7～9 月）からは売上高、営業利益が回復し、特に第 3 四半期（同 10～12 月）から期末にかけては、PCR 検査をはじめとする「COVID-19」関連検査の受託が臨床検査事業の業績を押し上げ、全体の売上高は微増となった。利益面では、増収に加え、全社的な業務効率化、固定費削減の徹底などによって大幅な増益となり、営業利益、経常利益は過去最高となった。1 株当たりの年間配当金は、20 年 3 月期実績比 6 円増の 54 円となっている。

セグメント別の売上高では、臨床検査事業が 272 億 700 万円（同 4.0%増）、調剤薬局事業が 164 億 1,600 万円（同 3.7%減）となった（他に調整額で 1,600 万円マイナス）。また、セグメント別の営業利益では、臨床検査事業が 19 億 7,300 万円（同 4,674.6%増）、調剤薬局事業が 9 億 6,800 万円（同 7.1%減）となった（他に調整額で 3 億 2,800 万円マイナス）。

臨床検査事業については、期初において「COVID-19」拡大の影響により、受託検体数などが減少し収益が悪化（第 1 四半期…20 年 4～6 月。赤字）したが、同年 6 月以降に減少幅が縮小。PCR 検査など「COVID-19」関連受託数が著しく伸長し、通期の臨床検査の検体数は 20 年 3 月

期比 2.1%減に、受託単価は同 7.9%増になった。利益面では、固定費削減の取り組みが寄与し、セグメント別の営業利益は大きく改善した。



調剤薬局事業については、「COVID-19」拡大による医療機関への受診控えに加え、高齢者施設、在宅などの処方箋応需拡大ペースが鈍化。処方箋枚数は 20 年 3 月期比 11.0%減となったが、処方の長期化による処方箋単価の上昇（同 8.0%増）と施設取引の拡大が加わり、セグメント売上は同 3.7%減となった。なお、当期中は店舗の増減は無く、21 年 3 月末現在の店舗数は 106 店舗（フランチャイズ店 6 店舗含む）となっている。

キャッシュ・フロー（以下、ＣＦ）の状況については、21 年 3 月期末の現金及び現金同等物残高は 116 億 1,800 万円（20 年 3 月期末比 59.8%増）に増加した。営業活動ＣＦでは、税金等調整前当期純利益が 28 億 9,200 万円（20 年 3 月期比 56.2%増）、減価償却費が 9 億 3,700 万円（同 4.5%増）、売上債権の増加額が 8 億 6,800 万円（20 年 3 月期は減少額 7,900 万円）、仕入債務の増加額が 5 億 9,600 万円（同減少額 2 億 3,000 万円）、法人税等の支払額が 5 億 4,800 万円（20 年 3 月期比 15.1%増）となったことなどにより、営業活動による収入は 29 億 3,700 万円（同 54.5%増）に増加した。投資活動ＣＦでは、有形固定資産の取得による支出が 13 億 3,300 万円（同 39.6%増）、有形固定資産の売却による収入が 18 億 5,600 万円（20 年 3 月期は無し）、投資有価証券の取得・売却による差引支出額が 2 億 4,700 万円（20 年 3 月期比 384.3%増）となったことなどから、投資活動による支出は 5,200 万円（同 95.6%減）に減少した。財務活動ＣＦでは、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額が 26 億 400 万円（同 4,313.6%増）、配当金の支払額が 5 億 2,000 万円（同 3.0%増）、自己株式の取得及び売却による差引支出額が 3 億 4,300 万円（同 48.0%減）となったことなどから、財務活動による収入は 14 億 6,000 万円（20 年 3 月期は 12 億 6,700 万円の支出）となった。

22 年 3 月期の業績見通し…22 年 3 月期の業績は、売上高 448 億円（前期比 2.7%増）、営業利益 28 億円（同 7.1%増）、経常利益 30 億円（同 5.2%増）、当期純利益 18 億円（同 2.9%減）の見通し（当期より収益認識基準を適用。前期数値とは単純比較）。セグメント別の売上高予想は、臨床検査事業が 282 億円（同 3.6%増）、調剤薬局事業が 166 億円（同 1.1%増）。また、営業利益予想は、臨床検査事業が 21 億 6,000 万円（同 9.5%増）、調剤薬局事業が 10 億円（同 3.3%増）（他に、調整額で 3 億 6,000 万円マイナス）。1 株当たり年間配当金は 56 円の予定。

「COVID-19」関連検査については、PCR 検査等の実施能力（1 日当たりキャパシティ）を 20 年 6 月末の 400 件から 21 年 1 月末には 1,600 件、21 年 4 月現在では 1,900 件へと強化。その他にも、抗体検査（ECLIA 法）、変異株スクリーニング、重症化リスクの判定補助検査を実施している。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。